



新型コロナウイルスワクチン接種後の 心筋炎・心膜炎について



ファイザー社とモデルナ社の新型コロナウイルスワクチン接種後に、ごくまれに、心筋炎・心膜炎を発症した事例が報告されています。特に10代・20代の男性の接種後4日程度の間が多い傾向があります。

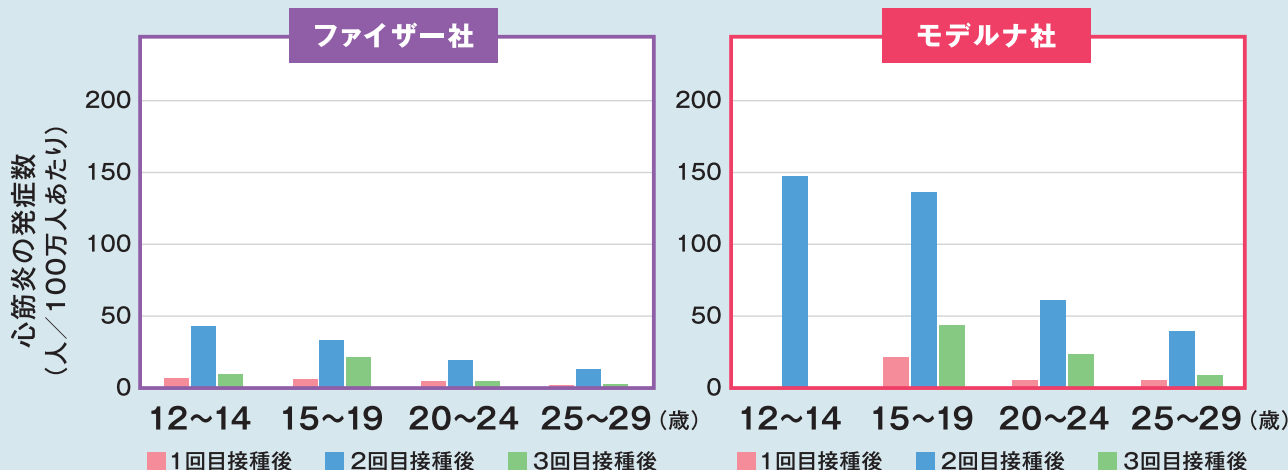
10代・20代の男性も

3回目接種を含め引き続きワクチン接種をご検討ください。

これまで、新型コロナウイルスワクチンの1・2回目接種後については、ごくまれではあるものの、10代・20代の男性でより多くの心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されたことをご知らせしてきました。

今般の報告により、3回目接種後は2回目接種後より頻度が低い傾向であることが確認されています。

10代・20代男性の心筋炎が疑われた報告頻度



出典:第81回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和4年度第6回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(令和4年7月8日)資料から作成

■心膜炎の報告頻度については、裏面の情報からご覧ください。

ワクチン接種後4日程度の間に**胸の痛み、動悸(どうき)、息切れ、むくみ**などの症状がみられた場合は、**速やかに医療機関を受診して、ワクチンを受けたことを伝えてください。**

- こうした症状は、心筋炎・心膜炎の典型的な症状です。ただし、そのほかの原因でもこれらの症状となることがあります。医師の診察を受けましょう。
- 心筋炎・心膜炎と診断された場合は、一般的には入院が必要となりますが、**多くは安静によって自然回復します。**

新型コロナウイルスワクチンは、発症予防効果などの接種のメリットが、副反応などのデメリットよりも大きいことを確認して、皆さまに接種をおすすめしています。しかしながら、ワクチン接種は、あくまでご本人の意思に基づき受けていただくものです。ご本人または保護者の方が納得した上で、接種をご判断ください。

Q: 10代・20代の男性以外でも、ファイザー社ワクチンよりもモデルナ社ワクチンの方が心筋炎・心膜炎が多いのでしょうか。

A: 令和4年6月10日時点における解析では、10代・20代男性以外の報告頻度はワクチン間に差はありません。

最新の値や他の年代、性別の報告頻度はこちらをご覧ください。➡



Q: 若い人はワクチンを打たない方がよいということでしょうか。

A: 日本で接種が行われている新型コロナワクチンは、いずれも、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、重症化を予防する効果も報告されています。海外だけでなく、実際に日本において感染が拡大した時期でも、若い人の感染者の増加が確認されており、引き続き若い人に対してもワクチンの3回接種をおすすめしています。

◎安全性や副反応に関する最新の情報について

新型コロナワクチンの安全性や副反応についての情報など、最新の情報については、こちらをご覧ください。➡



◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

◎ワクチンを受けた後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症予防効果が確認されていますが、その効果は100%ではありません。また、ウイルスの変異による影響もあります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。



感染予防対策を
継続していただ
くようお願いし
ます。



密集場所

「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避



密接場面



密閉空間



マスクの着用



石けんによる
手洗い



手指消毒用アルコール
による消毒の励行

新型コロナワクチンの詳しい情報については、
厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン 検索

